

（様式6-A）A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

遠藤 史隆 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 The ultrasonographic assessment of the morphologic changes in the ulnar nerve at the cubital tunnel in Japanese volunteers: relationship between dynamic ulnar nerve instability and clinical symptoms

（超音波を用いた一般住民の肘部管における尺骨神経形態変化の評価：尺骨神経の動態不安定性と臨床症状との関連）

Journal of Shoulder and Elbow Surgery International (誌名), 5(5) (巻), 942-947 (頁), 2021 (年)

Fumitaka Endo, Tsuyoshi Tajika, Takuro Kuboi, Satoshi Shinagawa, Toshiki Tsukui, Tomoki Nakajima, Yusuke Kogure, Hiroataka Chikuda

論文の要旨及び判定理由

一般住民における肘関節部の尺骨神経不安定性 (UNI) と尺骨神経の形態変化、臨床所見、利き手・非利き手における所見の違いなどとの関連は明らかでない。本研究では一般住民検診の受検者を対象とし、超音波検査機器を用いて UNI の頻度および利き手・非利き手における違い、UNI と神経形態変化や臨床所見との関連について調査した。

調査の組み入れ基準を満たした 153 人 (男性 41 人、女性 112 人) のうち、51%に何らかの UNI (脱臼または亜脱臼) を認めた。利き手・非利き手で UNI の発症形態分布に有意差は無かった。利き手、非利き手ともに尺骨神経亜脱臼群でのみ内側上顆中枢 1cm における神経断面積が有意に増大していた。UNI の程度と肘関節症状および機能の問診表を用いたスコアや握力、key pinch 力といった身体所見との間には有意差がなかった。

本研究は一般住民における無症候性の尺骨神経不安定性が稀な事象ではないこと、利き手・非利き手の差に影響されないこと、肘関節周辺症状や上肢の機能に影響しないことなどを明らかにし、尺骨神経亜脱臼群では繰り返す圧迫ストレスによる神経形態変化が生じる可能性を示した意義のある報告であると認められ、博士 (医学) の学位に値するものと判定した。

(令和4年6月28日)

審査委員

主査 群馬大学教授 (医学系研究科)
脳神経内科学分野担任 池田 佳生 印

副査 群馬大学教授 (医学系研究科)
リハビリテーション医学分野担任 和田 直樹 印

副査 群馬大学教授 (医学系研究科)
公衆衛生学分野担任 浜崎 景 印